

出張報告

報告日

令和3年12月15日

| | |
|------------|---|
| 会派名 | 公明党 |
| 報告者氏名 | 若井 恵子、真貝 維義 |
| 種別 | <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究 (<input type="checkbox"/> 行政視察) <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議 |
| 用務 | リサイクル燃料貯蔵施設 |
| 日時 | 11月25日(木) 10:30 ~ 11月25日(木) 11:30 |
| 場所 (会場) | 青森県むつ市 |
| 調査項目等 | リサイクル燃料貯蔵施設の現状 |
| 概要 | <p>リサイクル燃料貯蔵 (RFS) の視察 (説明者 立地広報グループ ■■氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設中のリサイクル燃料貯蔵 (RFS) は原子力規制委員会から2020年11月に新基準適合が認められた。 ・11月21日、操業開始時期が2023年度に延期した。 ・安全審査の長期化で新規制基準への適合決定が遅れ、追加の安全対策工事も必要となり、操業開始時期の延期は8回目となった ・2022年度上期に安全対策工事を終え、保安規定の認可や安全協定の締結を経て2023年度下期に使用済み核燃料の搬入を始める計画でむつ市と安全協定締結後に柏崎刈羽原子力発電所より1基のキャスクを試験搬入し検査合格後、本格稼働となる。 ・操業開始時期は保安規定の認可見通しがついた段階で見極めると説明を受ける。 |



| | |
|-------|---|
| 所 感 等 | <p>「真貝維義」</p> <p>柏崎刈羽原子力発電所及び福島第一・第二原子力発電所の使用済燃料は十分保管できる容量があることが確認できたし、柏崎刈羽原子力発電所の使用済核燃料の移送については理解ができた。操業に向けては保安規定の許可が必要であるが、むつ市との安全協定の締結も必要である。青森県・むつ市との使用済核燃料税の合意も必要であり、また青森県は核の最終処分場にはしないと明言しておりRFSへの使用済核燃料の搬入を認めないのではないかと懸念しているが、RFSは再稼働を目指す柏崎刈羽原子力発電所にとって重要な施設である。早期に安全協定を締結し、すべての検査に合格し2023年の稼働を期待する。</p> <p>「若井恵子」</p> <p>柏崎刈羽原子力発電所の使用済核燃料プールに保管されている使用済核燃料体はプールの81%を占めている現状の中で、むつ市にあるRFSの稼働は柏崎市にとって大変重要な事業であると感じる。RFSは操業開始時期が8回も延期されている現状は大変憂慮する事態と感じる。保安規定の認可に向けて安全対策工事を粛々と進め、早期に操業することを望む。</p> |
|-------|---|